

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

慶長
新刀辨疑

六



6207

新刀辨疑卷之六

東山道



江州住人佐々木八道源一峯

九峯

一峯ハ江州の住人として後江戸へつゝる初代ハ善四郎入道と云地鉄
細小鋭白者て烈々起出来ぬ一二代目ハ父より臨き出来ぬは鋭ハ二
代目也猶久日或人善四郎ハ二代と云是非分ぬあらずと云拙者善四
郎ハ中い古し初代来り疑屋うぐ代

九峯

關氏藤原士口國

吉國ハ子ハ多集一書も漏りるゑふふゝゝの石物なり

濃州上有知之住無辰作

重慶長拾冬年八月吉日

三品越前守源定道

ウラ天和三癸亥年二月五日

定道ハ多集國不々出一書ニ何係兼則々来々て何年ハ住すゝる方々も
角峯キリヤスリ

近江守藤原清宣

傳中書清宣父より上り也
ウラ寛永三年二月日

表

濃州関住壽命

中直又ニテ上手ニアラス

裏

享

保十八癸丑年
二月初午作之

九公子

無光五代目無直作

出来強ク上手也

豊後守藤原助宗

角峯小肉中直又

嶋田小十郎豊後探播磨大探共三同人ト見ヘタリ

助宗ハ佐前國一々季助宗之後也之代目ハ駿河國彦根の逢稻葉と云
不々住す嫡子ハ代ハ助宗と切次男義助別家トてあるふゝるゝ孫葉
長比 右命ハ佐と誤しゝ有佐の助宗も駿河より移りしと云は
豊後守何代目と云ふ未ハ詳あらず地録細小小録自為て書又多し

信列訪住藤原信舍

角△子 松目細直双上手也

○ 信州佐長治造

信舎長治商人亦不爲而素に漏り信舎ハ地鑛細小輕みそ
上子や長治も古解の作也蘇原富田の如きりの也
一書小長治ハ文禄頃の治工也と云

「小肉アリ」み長二尺五寸、極目肌アリテ見事也。

奧列國分若林住山城大榑藤原國色

源次郎國包

小肉アリ

與列仙臺住國包

國包ハ奥州仙臺國今若林伯人之山城入道用惠藤原山城大掾藤原
出羽大掾藤原寛永以山城大掾藤原次郎等數代有て銘もつく小切
也九曜紋切し國包う作鑒鑑の極目地又つ面より看て小籠肌の質不顯
多夫和國保昌平郎を克るゝ如き物也新刀似物報不治工數家育と

能東山美平以國色及び小笠原忠高の之作ハ移しつゝもの也
 一書小大和國多市の任保良宗より末迄永中興安他等より山
 城乃道法名用車と号し山城太孫孫原國色と切太守九曜の紋を
 記し扶持人と或代々國色と切二代目ハ京都城中より後の人也四
 代目より孫原と切六代目程千郎と稱すと云按不永永中興安一
 たりし者の四代の孫又九曜及改姓いし取をし永永永と記せし
 實永の誤りたる有り用惠即九曜切つる國色より永永よりあり
 一もは國色とせし出羽大孫源次郎ハ河代とるる未だ詳あり代
 角子

奥方加仙基住安倫

又方少レ肉アリ

一書に安倫元祖ハ駿州磐田田宗弟子偏助也永永中興安仙基住一

二代倫祐三代目安倫より相州傳を録し四代目安倫ハ太吉戲作のお
 祖打し者也金部仲と稱す五代目安倫ハ戸方永永安倫ハ人也初お原と切
 角子

奥州住兼定

角子

奥州住兼定

兼定ハ清和關和永永永定五代の孫色江太孫兼定奥州會津つ下
 り居和を花田と云孫左衛門と稱す二代目後ハ色江と切是も孫
 左衛門と云入道兼定と切三代目も近江と切古川數ると云享保四年
 三千九百也又云は兼定五代の先祖ハ皆名盛氏の氏として録二百名を給

「肉アリ丸筆ニハアラス

陸奥大掾三善長道

友四

「ウラニ〇寛文十^{庚戌}年二月日

陸奥會津住道長

一書長道元祖ハ安藝國廣治住國行々子奥州會津ツリ長國と
稱す長國子長道長治年中上系陸奥大掾ニ奉安享以江戸小住す
と云

「丸ハ子

東奥磐城住貞平

陸奥貞則子貞平ニシテ長
一尺八寸一分廣厚短小録
自右有老後ノ作ノ如シ

貞資ハ東奥磐城住貞資ト物足又矢別々一門来ツシ貞平ハ少小宮

「角ハ子

奥州盛岡住国義

表ハ幡大菩薩重鋳彫物々ナリ

元禄四年二月日

「角ハ子

新藤源義國

奥州盛岡住新藤源義正作

同銘小

「ウラニ新藤源義正
ウラニ奥州盛岡住

ト有此サノミ
上ホニハアラス

「ウラニ寛保四^{甲子}年二月日

北陸道

少肉アリ

佐州住康氏

康氏ハ佐州國の部族多集ふ所なり關西文士よりあて之禄以て之

角四半

賀州住藤原家平

角四半

加刈金澤住高平

大ニダレ又強シ

廣直又砂流

「ム子小肉アリ

賀州金澤住藤原無若

ウラ 享保貳拾年二月吉日

大ニダレ強シ

「小肉アリ

加刈住陀羅尼橋勝國

「裏千秋萬歳

勝國ハ蘇門答刺將監と号せし者伊豫大掾也切は銘ハハ代目也又七代目とも云り和戸岳之郎と号し初代のめきハ此ハ也也

「角ム子

鍛南蠻鐵鈕之

明曆三年二月日

重銘新ニ刻たふ出ル

國 嚙國住藤原邦先

么子

丁子象又強し 二代目丸五

一書に其國ハ京堀川國廣ク人出ルチ豫國孫々弟子刻國忠國
と改國州多ク銀法可ト來任太守の家人と奉因幡智と切二代目ハ
佐濃大探後ハ多ク切山本ハ島と美と稱す山田元年朝鮮の位使

山陽道

九

播磨國鈴木五郎右衛門尉宗榮

強少荒錄多之

九葉半 山より

右五良宗栄

又長二尺一寸八分

廣直又鑑せ

宗栄ハ播磨住跡末五郎右衛門尉又藤原右作とも云五郎右切也地
鉄細ハ能志田里中流小鑑多く自みてゆく大灣大鑑又廣直又何也
も花やうふて及ふ物也重厚く云々等小造りて榊樋樋榊中心
の先造り起通し中心も位りりの也鑑ハ大鑑造の意の如也位立
あり上あり

小肉アリ

大和太掾藤原氏繁

ウラ 享保十九年八月、日

四代目ナルベシ

小肉

播列千柄山麓藤原氏繁精鍛作

九ム子

五代目ナルベシ

匿陽國衙壯金重

小肉アリ

彌國住八重自作

平造り

ウラ

元禄四年八月、日

幡國住負重ハ大鑑又さて薩州所房又似あり上あり

小肉アリ

義作國住西日京

兼光等ノ一
家上ありナリ

関ミダレ強シ

横山野大掾藤原祐定作

「ウラ
備別長船住人

「カクム子

前國長舩住横山源八良壽次

ウラノ女永六丁酉歲二月吉日

素次は作地鉄細ふ直又として七ヶ所射り獲理の少し弱き故より
上多きは外ふく備前の治工上鯉大掾の跡の祐宣ハ源五郎河内守
祐宣ハ源八郎後七ヶ所尉の跡ハ太守繼政朝臣の命小よつて及七ヶ
所尉素光と改むる也按ふ河内守の源ハ五郎君の素次と銘し横山源
八郎より成座して是之人其作を免ぶしか甲乙漢るしといふ事此同位あるん

九峯

東門兵衛正成作之

佐前守山佐東多し之屬正成ハ者集又妻し地狭細又白深く潤ひ有て
 値前飛又又下飛又又多し切物亦之し後集又ハ正成ハ同人來ハ
 一書ハ妻木正成者銘セーと云按又寛永より延寶以迄銘一と見ハ

東多門兵衛心盛

正華ハ正次ノ子正成ノ孫トシテ代目ナリキ中興本姓細ク自承ク正成正次
ノ作又似テリ併正成ヨリハ才又劣メ方也今國山城下ノ正吉ト號スル物ハ末
成ビシヲ亦モ繼及朝臣ノ命シテ其ノを稱ルモノト云フ也中興未ダ見ズ

備前國ハ鍛冶相應の風土なり一宗院永遠にあり成り下の上ユ多
 し是世のふたや心以より以方又意て心以るむてハ用を物も心
 り家ぬ凡そ長以よりハあふむてハ祐安数千人あふむてあふむて
 物も心佩るき物多しハ良物也撰りてしハ銘多集今の附録に又ハ

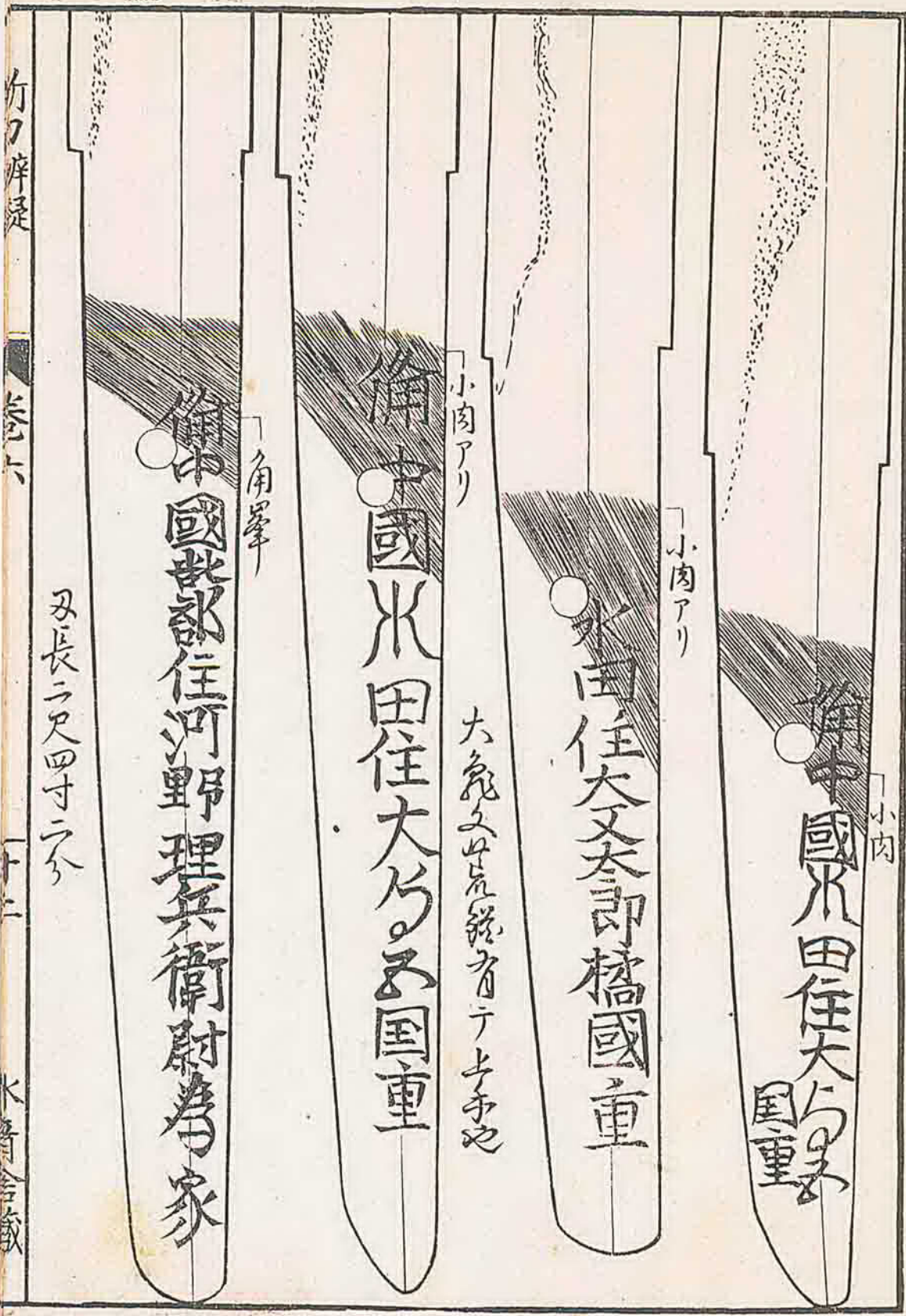
小肉

○備前國 郡佐河野理兵衛尉為家
 水田集月市藏 國重

又長二尺二寸四分半 公廉漫理銘多ク白深シ

寛永十九年壬午月日於松山是作

為家ハ心鉄細小銘白深し公廉又生改のかし物一ハ心ゆハ物也
 久の経ハ地鉄志城とく又ゆと出より物も代大なるもあふす兄
 ゆハ物も心撰りて佩刀とすべし



小肉アリ

小肉

小肉アリ

角峯

大龜文ハ銘有テ上ホ也

○備前國郡佐河野理兵衛尉為家

○備前國水田住大乃の國重

○備前國水田住大乃の國重

○備前國水田住大乃の國重

又長二尺四寸二分

水田家三郎兵衛尉國重

備中國水田家を見ふ大月たき山松山城下あり村お住すき子三
 郎を傳へき子ありき郎は男事花之男安んぬつ國光也と大月與五郎
 國重ハ即ちありき二代目也たき國重とてき切しきも此作は鉄細
 又き鉄小銃多く自むて作しき強くは鐵細ハ有て相之重の如く蹄
 重ててき也又地机つ面お有て則重の如きも有は鉄志ありしが肌
 頭ハあゝ代出木の惡きハ頭も也帽子ハあゝ出木のし也凡
 ちあゝ軍しきと云とすたき國重ハ傳中國在東佐國重と云は作は鉄
 田のえ能大月ありき郎が祖父也傳中國在東佐國重と云は作は鉄
 細ハ強く引張是鉄小銃白深し慶長より古し二代目之郎を傳

父と同じふ中郎と云作も有也水田の中より二人ハ輩にき鉄志し
 一書ハ備中國青江佐次郎事花之男國英其郎皆部お住しき山
 ありき佐は郎を傳と稱す二代目ハ河野ありき郎國重大月
 と云二代目同國は日那在東佐左郎つ國重ハて又此の治也四代目
 ハ皆部佐大月ありき郎國重と云は也又代目大月ありき郎山城お住國重
 六代目ハ郎左衛門國重吉子保四年二十四歳也水田ハ平田村お住古文
 事鉄の國重と云と云按ふ後集お出する系圖ハ大月ありき郎也四代
 目ハ大正中六代目ハ吉子保の事ハ國重ハてハ僅二代より百餘
 の年數ありき子ありき郎と云は然し其青江の為次郎事花
 と云と云是ありきしつる此の以の為は國重ハ兄弟別家せし
 やつと云と云取てハ二代目ハ郎大月國重の祖父と云つたり又云郎天
 正に拾也其孫ハ郎事花と云と考ふお初ハ其家後ハ國重と云

せしるもろとてつる世部小亦以序國重と銘せしもの

小肉アリ

備中水田住國重作

又長二尺一寸七分

廣五寸銘多し

於備後福山造之

尾道五所縣感行

慶長はヨリ古ク見ユ

備後國ハ慶長以前ハ之原の末系尾道縣あり住し賴之原尾道之
系とせよ多し其阿保五河保力河保心下数人有り其の

上手也辰房一軒ハ肘更上とて是近世の物と見し又辰房は田助廣
うつ弟也宗助高下りて上手と見す也

小肉

肥後守藤原輝廣

播磨守藤原輝廣作

輝廣ハ尾張國任人肥後守藤原輝廣と切福清家の后とて安藝國
廣山に移住す播磨守藤原の初代也此作は鉄や金として明書一
家の如く銘自いりて信りある物也播磨守も上ありた辰房也
ハ抄前の上も也或云堀河の末つ一人と云ては誤なり

一書又ある國慶時任伊賀守藤原輝房同播磨大掾左と切も有
又享保の輝房は孫四郎藤原と切肥後守子孫まで代々輝房と
切とを拂ふ程は慶長以来の人とて耐るもてハモ代目承へし伊
賀守と切ハ何代目承へるも承へる代

小肉アリ

藝刀住源則房作

細直又長京守云々

則房ハ前住の系承記ある如く大鉄細小鉄白い漆し伊賀守程及
古輝房よりして至るまで一と云ふあり

小肉

藝刀住細慶

細慶ハ作則房よりして少くおより昔よりうへに慶長、附録又云ふ

角平小肉

長州住井刑部亮門三王方清作

又長一尺八寸五分中龜文又強し上多也

寛文十年八月良辰

新刀の二王方
玉井を稱す者
多し

佐。渡平國富元喜作

小肉

一書又元喜ハ奥州寒國江都出雲長つ昔より居を移せし

長州住源子代家次

南海道

於南紀重國造之

小肉アリ

角筆

於南紀重國造之

小肉

於紀功文珠重國造之

細直又ツヨシ

二代目金助也

寛文七年

八月日

九筆 又長二尺四寸五分直又也

於南紀陽文珠重國造之

重國ハ初代於南紀重國造之と切地録云く細又もくやうふと淫
いり少鑑自深く信ずる文又也経理ハ海内の達人とも云ふ也
猶久も本國後北とて偏り能計一里といふべし帽子三原の如
くをきりて中心の能能きと鑑ハまりやすき鑑とくわい
あり筆ハ一肉又二代目金助もふと似て少くもあなり

一書又和文と押包永末鑑ふた郎重國又和申強廣一平
弟の良江郎重國も人た紀州和音山明光山と鑑ふ仍て世不強河文
殊と鑑ふた一象の鑑いりく有先和音山明光山と鑑ふ仍て世不強河文
又紀州明光山住重國造之とふえ和の建書可た和音人ぬと郎

紀伊國上井原光

紀列佳天狗作

「ウウ。○
鈴木三郎五郎是所持者也

山本平馬尉助政

助政、一書不給、木大和守とも切と云、予國急、此す小裁、亦今役て
沈州へ記す、按又此へ平る、是れ和守と云、此中へふん

豫州治住相摸穿源國維作

初大坂ニテ後今迄へ下リレナルベシ

與列大溺住廣宣

新刊
辨別
類

卷六

小肉

三十五

水戸
藩
繪
巻



○山城守源国道

平安城佐同人ニテ豫州吉田ノ人ナリ

西海道

角小肉

○筑前住 辰仲

辰仲ハ残りの下坂一かゝりて辰年ある也筑前ノありしと云ハ
ナリノミヨシと云々也寛文以の作ありし

信國光昌造

上ユナリ

ウラ 安永○六ノ年八月日

○豊州中津住藤原朝家作

角小字

○豊州高田住藤原統行

角小字直刃

○豊州高田住藤原行長

角小字直刃

○藤原豊改

角小字

新刊
辨別
類

卷六

三十五

水戸
藩
繪
巻

「角メントリ

○藤原宣行

角面トリ

○藤原正行

「角峯

○藤原國隆作

「初代

肥前國忠吉

「角峯

肥前國忠吉

「小肉アリ

「初代

初代

肥前國忠吉

「小肉

肥前國住武藏大掾藤原忠廣

寛永六年八月吉日

「角ム子

寛永八年二月吉日

右同銘ニテ年号此ノ如シ

角公手小肉

寛永五年八月吉日

又長二尺四寸九分中縵理ツヨシ

肥前國佐武藏大掾藤原忠廣

肥前國佐藤原忠廣

ウラ 寛永八年八月吉日

肥前國佐近江大掾藤原忠廣

角公手小肉細直又強ク見事ナリ

二代目也

「角公手キリヤスリ

近江大掾藤原忠廣

二代目平作郎三代目新之郎五作也
ツヨクシテ
見事ナリ

肥前國陸奥守忠吉

「角公手

肥前國陸奥守忠吉

肥前國佐陸奥守忠吉

「角公手

角字

肥前国住人忠吉作

四代目

肥前国近江守忠吉

九公子

五代目

丸字

近江守忠吉

角字

六代目

肥前国忠吉

今ノ忠吉若年ノ作ナルベシ

肥前国近江大掾藤原忠吉

小肉

角字

肥前国忠吉

六代目今時ノ人也

九字

肥前国近江大掾藤原忠吉

今ノ近江大掾ノ嫡子ナルベシ

安永二年二月日行年三拾又七造之

忠廣と改すは作公祖同位の名人とて地鎮の志ありみの強き子父祖
 と越より経理にち板はゆともあらずとゆるる子仲て忠廣ふ似り
 氣又又八犯前録治の得るるにあらずは忠吉と初代以後の氣又ハ
 能物有四代五代六代安あて事の作跡五郎と切し若し弟又弟里と土佐
 も忠吉ハ元祖のつ人也又初代の河内も若年の比ハ忠吉と切るるハ強き
 南吉信子とて元祖の外孫を平作郎家督せしまでハ忠吉と切しと之を

肥前國河内大掾藤原正廣

小肉

中直又強し又長二尺五寸四分堀惠助壽正廣ニ贈按スルニヤスリハ切鑪中心

肥前河内守藤原正廣

角ニテ小メントル

ハ鉏ノ掛ヨキヤウ又ノ廣キハ好
 マストアルナハ忠吉同事ニ
 門人トナリシナルベシ

肥前河内大掾正廣嫡子武藏守藤原正永

小肉

富士山星雁ヲヤキ入タリ 又長二尺三寸五分

正廣の初代ハ元祖忠廣の智孫七重吉行の嫡子な傳治と稱す元祖
 武藏大掾外孫を傳治ハ忠吉の銘を譲る故ハ二代目平作郎家督と
 成し正廣ハ正廣忠吉の二代目也寛永二年太守の命ハ仍て正廣と改
 同十八年河内大掾と成し作上あふして平作郎同位の物也二代目ハ河
 内也と切三代目ハ正永の代目ハ正廣と切也ハ永ハ忠吉と切

出羽守行廣

以阿蘭陀銀作

行廣ハ右正廣の弟少して正廣同事の上手也對し氣又又も隆興と云

おろろる物也同國長崎の阿榮院の秘方と云ひて銘と
也初ハ出羽大掾後ハちと持す二代目も出羽ちと初ハあゝる



播磨守藤原忠國

ヒタツラ又 鉏ノ上ニ榮ヲ切



以真之鍛作

小肉アリ

肥前住廣貞

斯ノ如クナルモアリ

廣貞ハ元祖忠吉ノ弟子ニテ師ヲ作メ似テ今少シ乃をせし物アリ
其國ハ右廣欠ノ子ニテ播磨大掾又文信ノ子ニテ作地鉄細又小鉄多く

白い深し初廣ノ物也との也二代目ハ播磨おと切三代目播磨大
掾と初ハ才少く小里牡丹と初ハ二代目也初代の中心毎集ふ及ゆ

青木氏藤原永央

享保〇三年八月吉日

廣直又ニシテツヨキ出来也

〇以南蠻瓢草鐵真鍛作之

肥前國住遠江守藤原魚廣

角峯

角ノ子

遠江守藤原魚廣

〇以南蠻鉄真鍛作之

西人ノ作也

ウラ

同住越中掾藤原吉住

肥前國住人吉家

伊豫孫宗次ニ似テヲトレリ
白フカクヨハキ出来也

肥前國住人廣則

小肉

「角」字幼代忠廣時代ナルベシ古ク見ユ

肥前國於唐津高田河内并源行平

「小肉アリ」
ウラ○紀新大夫末

鬼神大夫末河内并源行平作

ウラ○南蠻以鐵銀

小肉

豊後太師末作七十余歳

小肉アリ

土肥真了

初代也

刃長一尺三寸六分

大湾鋭多ク白深シ

「小肉アリ」作之趣ナルヘシ

土肥真了

ウラ 元禄十四ノ夏二月ハ

「今ハ作之趣ニ十九也」

真了ハ井上出役ウ人及紀前國神崎郡平戸ノ下里松浦の衆ノ
末了ハ作之趣細ク見録小鋭多ク白深ク生及細クウツヤリ中ハ

の法立臨生及び作の如し帽子も能く作り大に威ありてさへも方や
数代相續して此来りし今もさうハ四代目大六と云

一書又東越中も正後子子正則子子正重子子作左衛門近衛ハ
年大坂へ来て井上出役門人と出天和二年平戸へ歸るおき
の初代や子子作と云認父の同じ子保五子四子ハ家と云揚ふ
初代越中も正後ハ慶長にや正則正重も子作左衛門近衛中
の人といふ時ハ僅の年數又四代を經るもいふべき者なり此
すふ正しき又似てゐるからゝ不厭て情見お備ふ又國人の云作

小肉アリ

土肥真了

大六と稱ふ父祖ハ
此ハ初代おき子子重也少くも當時の生さハ 大小おきなりと

○豊後國鬼鏡直行作之

以南蠻鐵鍛之

一書小直行ハ豊後のさ由より肥前上松浦郡唐津へ奉侍す大和
もとより鬼鏡とは其の標本又鬼の牙と云くおきと云

丸筆

薩列住藤原正清

又長二尺五寸三分度直クツレ

丸筆

○主水正二清

又長一尺八寸二分

主水正三清

角半

身長二尺一寸五分

主水正三清

主水正三清

正清ハ薩州住人宮原法方國門と云後ハ覺ちまゝと改む享保五年七月十二日奏つたを以て紐元一切主水正三清と切也此作地鉄細く青く底より乳白色を爲す菜鉄小鉄多く白漆し裏面大のり地の中より一乃て見る或るつらなやうに花やうさハ大板生改助廣

るも越ぐたりと疑ふ程ふ忍ゆる也帽子大木の如く立伸て丸く志まきつゝハ穉也切鐵とてた務まつた助達のことあり角を細めて半の強も平のすり又同一中心の四方半方其下面鉄かゝ取る部て細るゝ丸めして板好よりハ重し又地もともハ乳白も白里丸田伊豆も正房カ門人也

薩州住藤原正房

正房ハ薩州の住人父ハ美濃國冥丸田若狹守氏房薩州へ往きお國つと稱す嫡子正房又其子つと云然ハ薩州住正房或ハ丸田伊豆等切此作地鉄細く青く底より乳白多く白漆し裏面大のり地の中より一乃て見る或るつらなやうに花やうさハ大板生改助廣

九ム子左ヤスリ

薩○列住三良

九ム子左ヤスリ

「ウラ安永二癸巳八月

薩○列住三良

薩○列住三良

九ム子

薩○列住三良

「ウラ明和七庚寅八月

正良ハ正清ガ子西迫ウ弟子伊地知平字と号す地鉄研小龍

多く有深しと耐の銀治の中よりハ海内の上者也正清不能似下

波平大和守平安国

「九ム子スジカイヤスリ

安國ハ波平大和守平安の四男として家督せしと見えたり地鉄引
張る荒程少龍自方て強き出来多し上子也格口官と勘と云

ム子ノスリ出シ園ノ如シ方ノメンスコシスルナリ

一平安代

又長二尺二寸五分 深二尺

主馬首一平安代

「ウラ享保十二己年於薩易給黎郡作

新刊御記

九ノ年

主馬首一平安代

九ノ子

主馬首一平安代

大版毛切

寛延三年己巳十月五日

九ノ年

主馬首藤原朝臣一平安代

ウラニ享保拾三年二月日

安代ハ大和守平安行々人薩州給部郡喜入又佐墨小市郎後
ハ一平と云銘初ハ一平安代後又主一平安代或は藤原朝臣と切
も有は作地鉄細き足輕小瓶多く有とて深し帽子大をよりて
鑑てあるもの多し九ノ年よりハ藤原中心の光九ノ龍目の上
蓋板や重なりあつてゐる事也享保五年正徳と同く藤原殿
より於て御刀を銘ふ仍て葵一葉と云一平ハ正徳安代ハ东山美平
の次承屋也此れ世上者ノ貴重する所也一平子のひとす

大刀銘片平依リ

奥和泉守谷山波平忠重作

ウラ 薩列住

奥和泉守忠重作

新刊御記

卷六

三ノ九

大和守

筆スリ出シ法ノ如シ小シ肉ヤスリアラシ

○奥和泉守忠重作

又長一尺九寸三分直刃白深ク鋭多ク

○薩州住人

「小肉アリ

「小肉アリ

○奥和泉守忠重作

忠重ハ薩摩國住人奥和泉守也初ハ秀興と切及忠重と切庶兄也皆城下ニ住す國人奥と稱す地鉄細ク鋭自深ク正法也代正房ハ忠重同位の上多也方銘ニ切物多ク強あゝゝ也

一書ニハ大隅國ニ住て秀興と切及保年号アリ

「小肉アリ

○波平安廣

「小肉アリ

寛保年号アリ

○波平安明

安廣ハ安江子とてあり、嫡孫也安江ハ安江子とて安廣、弟也兄弟同位ノ作也地鉄強ク少ク鋭、正法也中ノ中、最鋭ク列ニあり、上多也

○波平安常

「小肉アリ

安常ハ安國ノ子トシテ標ハ四郎と稱す此作也誤父不似トカ一カ
此里保安朝安廣ノ子ハ四郎と稱す此作也誤父不似トカ一カ

未詳あり



伊勢守藤原清方

地金強ク出来カクシ

「ウラニ」薩列住

清方ハ安國ノ子トシテ安代ノ孫也此作也誤父不似トカ一カ

安永六丁酉八月日

又此ニ足守ノ子

大ノタレ 龍多ニ切先龍ニテ
サケ龍ニノ意あり

薩陽士元平

「小肉アリ」

薩陽士元平

或ハ忠重孫ト云々

又ハ一里

安永五二月日

元平ハ其傳未ダ詳ナリ作ノ位正良又同シ一平安代ノ作ニ似
傍水ナル上チヤハ人龍と云として白紙要と云ハ當時海内ノ達人
成ブ一國遠ク中利害を説ク能ハスル誠恨むのみ

薩列平依之住に次作

「ウラニ」

八月吉日

正次ハ新刀ニあるが天正以の治工といつた世ふ多かりけるが
 又圖す中氣文より鑑有氣きたるより忠也中心の長ハ一寸五分
 ハ少し肉アリ長二尺一寸然るも上あるにあへ

國不知

丸ム子

彦五郎壽命

壽命ハ國の壽家のつ族あるべしそしちその田を五郎と
 王に能く有る大能なる事也

角ム子

行高入道卜扇

小肉行高入道ハ佐々信高の隠録ある能くしる

播磨守藤原國清

和泉守盛經

一竿子忠綱ニヨク似たり門人ナル歟

ウラ 元禄十三年八月十日

大黒信重作

築紫信國ノ一家歟

○藤原貞利

角ノ子

○忠道作

小肉アリ

○井上良忠

角ノ子大坂丹後守三代目カク切シ歟

○稻荷丸魚道

丁子ミダレツヨシ

小肉アリ

○相模守藤原泰幸

又長一尺七寸五分出来ツヨシ

小肉アリ

○國良

寛文延寶ノ作ナルベシ

源
○矢野將監忠宗造之

角ノ子

○永重

宋武藏守源勝吉

直又

「九ム子

角筆 元禄比ノ人ナルベシ

黒田城守藤原信利

直又上手ナラズ

「角筆 細直又上手ニアラズ

統度○守藤原貞道

「角筆

高橋國重

並又高田ノ如シ

九ム子

小陽内記清次

「ウラ 千秋万歳

清次小陽と切ハ小陸七國の中ふるべし物れども其國不安なる
友に記すは仰地鉄細ふくく勇あくるまの末をゆる物也上手なり

「小肉アリ

和泉守源國士

國吉大坂御治ふん河内守國助う丁子小似たり上手也元禄比

角筆

無住作

越後守藤原和通

友集子より書りて又て大坂御所へ

小録自の上より

正安六未八月日

九八子

越後守藤原助廣

越後守助廣ハ大坂御所より書りて又て大坂御所へ
新刀辨疑卷之六終

